

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		さんさん館i					公表日 令和7年3月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童が過ごすための十分なスペースが確保されている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		長期休暇時には、一時的に学校介助員を雇用することで不足のないように対応している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		バリアフリーの設備となっている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔を保ち、心地よく過ごせるよう配慮している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別の部屋や場所を用意し、職員がついて過ごしていただいている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ST等からのアドバイスもふまえて、目標設定・振り返りを行っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月12月にご家族に放課後等デイサービス評価表のアンケートを実施している。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月のミーティングにて、職員の意見等を把握、業務改善を検討している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	実施していない。	今後、実施を検討していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資格取得研修や他事業所見学、権利擁護研修、ストレスマネジメント等支援に必要と考えられる研修機会を確保している。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		法人ホームページで公表を行っている。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		学校た他事業所での支援も参考にしつつ、計画作成を行っている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく個々の職員も、学校見学やリハビリ見学、ケース会議、面談に出席する等して、当該児に関する共通理解をもつよう心掛けている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画は職員間で共有している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	遠城寺式発達検査法を実施したが、結果を十分に応用できていない。	標準化されたアセスメントツールでの評価を計画作成に応用するためのスキル習得が必要。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個々のお子さんに必要な項目を検討し、目標を定めて具体的な支援内容を設定している。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		複数人でプログラム作成を行っている。個人の課題に合わせて作成している。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ST等からのアドバイスや季節のものを取り入れる等、新しい活動プログラムを取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々にお子さんのニーズ・課題に応じて個別と集団に必要な活動を盛り込み、支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	普段の放課後の時間帯は、生活介護の送迎もある中で十分な打ち合わせ時間を設けにくい。長期休暇中は比較的行っている。	おやつ支援後の、活動プログラム前に打ち合わせを行うことを徹底。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	生活介護の送迎や短期入所の受け入れなど、他事業所関係もあって支援終了後の打ち合わせが難しい。	記録に入力して共有している。また、半期に一度、振り返りを行う機会を設けている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎回の活動内容と実施状況をケース記録に残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に見直しを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		組み合わせて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		おやつやおもちゃの選択から、創作活動やゲームの中で選択機会を意識的に作る等して、実施している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、児童の支援の担当者や看護師なども出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携して支援を行うことを意識して実施している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時に学校と適宜確認している。 毎月、学校から月間予定などのお知らせをいただいている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		通所されている児童発達支援事業所へ職員が数人ずつ分かれて複数回見学に行き、情報共有を図っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		支援内容等の情報提供を行い、連携した支援を行うことを意識している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		新潟県医療的ケア児支援センターを介し、外部での看護実習を実施している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	実施できていない。	新型コロナウイルス蔓延により、地域交流の機会が激減したことは対応から検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参画している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ご家族がお子さんを迎えに来られた際や面談などで、こどもの発達状況や課題について話し合い、共通理解を持っている。ケース会議にも積極的に参加している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	実施できていない。通所対象が重症心身障がい児であるため、ペアレント・トレーニングの手法以外で保護者支援を行える技術が、当事業所に必要と考える。	家族等の参加できる研修機会や情報提供について、他機関と連携しながら収集していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に実施している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談をはじめ、学校での保護者同席のケース会議への参加、学校の個別の指導計画を参考にする等して、意向を確認している。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があった際には丁寧に聞き取りを行い、必要に応じて職員間で共有しないようも検討して助言・支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	今年度、保護者向け茶話会を2回企画したが、どちらも人数が集まらず中止とした。	次年度も、保護者向け茶話会を実施予定である。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付体制を整備し、かつ要望の段階でご家族からお聞きし、対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、事業所の広報誌を発行している。行事予定等もお便りにして配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		十分に注意して個人情報を扱っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こどもとの意思疎通・情報伝達には絵カードを使用する等、行っている。 保護者とは、口頭だけでなく毎日の連絡ノートを使用して連絡し、また重要なことは紙面にして伝えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ご利用者の作品を展示したアート展へ、地域の方々を招待している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		安全計画の策定、周知の実施を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		支援課会議等で実施状況の管理を行い、実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		家庭状況調査と共に、服薬や通院状況について紙面で提供いただいている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	対象者なし	該当者がいる際には、実施する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、必要な研修や訓練、支援を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		家族等へ安全計画を配布し、周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった際には報告書を作成等、職員間で共有している。また、再発防止策を職員間で検討し実施している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修の機会を設けている。今年度は有田病院有田医師より講義をいただいている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	対象者なし	該当者がいる場合の仕組みは整備済み。